

子実トウモロコシの生産や簡易調製貯蔵に関する 関東地方向けの標準作業手順書

飼料用の子実トウモロコシは、水田転換畑等で省力的に生産可能な作物の一つとして関心が高まっていますが、温暖な関東地方では台風や害虫による被害を受けやすく、作付面積や生産量はまだ少ない状況です。そこで、農研機構は、「子実トウモロコシの生産・簡易なサイレージ調製貯蔵技術標準作業手順書（関東地方版）」を公開しました。

☆ 技術の概要

1. 標準作業手順書（以下、SOP）では、青刈り用に国内販売されている飼料用トウモロコシ品種の中から、子実収量に優れ、早晚性や耐倒伏性、耐病性に問題の無い関東向けの有望品種を選定しました。
2. また、収穫直後の子実を乾燥せずに丸粒のまま簡易に調製貯蔵するために開発されたフレコン内袋法について紹介しています。フレコン内袋法は、子実をフレキシブルコンテナ内袋に密封することでサイレージ発酵を促進する調製貯蔵方法であり、水田農家が乾燥処理を省いて省力的に実施できます。フレコン内袋法で調製貯蔵された子実は、TMR センターや自家配合を行う畜産農家での利用に適します。
3. これら最新の技術情報について、主に関東地方の生産者や技術指導・普及に携わる方々を対象に導入手順や事例を分かりやすく解説しています。また、これまでに子実トウモロコシ生産に携わったことがない方でもイメージしやすいように、基本的な栽培方法や調製加工方法など子実トウモロコシ生産に必要な情報も併せて紹介しています。

品種名	相対熟度 (RM)	4月			5月			6月			7月			8月			9月			子実収量・kg/10a (水分15%換算)
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
P9027	93				●															985 - 1,315
タラニス	95				●															837 - 1,155
P9400	100				●															913 - 1,281
LG3457	100				●															889 - 1,287
34N84	108				●															966 - 1,372
LG30500	110				●															1,113 - 1,330
タカネスター	113				●															968 - 1,177
KD641	114				●															996 - 1,322
P1341	115				●															1289 - 1,504

● 播種時期 ▲ 絹糸抽出期 × 収穫



図 選定された有望品種と作型の例（2022～2024 年
に実施した栃木県那須塩原市での調査結果）

写真 収穫現場でトウモロコシ
子実を内袋に密封する様子

☆ 活用面での留意点

SOP 全編のご利用には、利用者登録(無料)またはログインが必要です。右の二次元バーコードあるいは以下の URL より、「ログイン/利用者登録」のページにアクセスすることができます。【<https://sop.naro.go.jp/document/detail/207>】



(農研機構・畜産研究部門 阿部佳之・内野宙)